

午前10時00分

○委員長（遠山 俊一）

- ・ 遅刻委員連絡（斉藤委員、茂木委員）
-

午前10時00分開議

○委員長（遠山 俊一）

- ・ 開会宣告
 - ・ 議題の確認
-

1 閉会中継続調査事件

(1) 北海道・北東北の縄文遺跡群世界遺産登録に向けた地域での取り組みについて

○委員長（遠山 俊一）

- ・ 議題宣告
- ・ 本日は、世界文化遺産国内推薦候補決定を受け、本市の構成資産の現状を改めて確認するため、垣ノ島遺跡の現地調査を行う。調査の流れとしては、現地に到着後、1時間ほど教育委員会に説明をいただきながら、調査を行う。現地調査終了後、暫時休憩とし、昼食を取った後、本庁舎へ戻り、委員会を再開する。そこで、本件にかかる課題や問題点、取り組みの方向性について、皆さんと協議したいと考えているのでよろしく願います。
- ・ 議員駐車場に議会バスを待機させているので移動をお願いする。
(現地調査日程 議題のとおり 午前11時00分～午前11時58分)
- ・ 以上で現地調査を終了し、暫時休憩とする。

午前11時58分休憩

午後1時50分再開

○委員長（遠山 俊一）

- ・ 休憩前に引き続き会議を開く。
- ・ 本件については、7月4日から6日の日程で、大牟田市と佐賀市に対して行政調査を行った。各自治体の取り組みは非常に参考となり、大変有意義な調査であったと考えている。なお、本件にかかる行政調査報告書については、先日、各委員に配付しているので、今後の調査の参考としていただければと思う。
- ・ 皆さま、御案内のとおり、先月19日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、世界文化遺産の国内推薦候補に決定した。そこで、本件調査の進め方だが、今後、早ければ2年くらいで、ユネスコ世界遺産委員会において最終的な登録が決定することなので、世界遺産登録前後、急増する来訪者に備え、必要となる取り組みについても調査していきたいと考えているので、よろしく願います。
- ・ 次に、前回の委員会で確認したとおり、これまでに出された意見などを整理し、改めて本件にかかる課題等について確認していきたいと思う。正副調製資料をサイドブックに掲載しているので、タブレットをごらん願う。資料について、説明させていただく。
- ・ 資料説明：北海道・北東北の縄文遺跡群世界遺産登録に向けた地域での取り組みについて

(平成30年8月17日付 総務常任委員会正副委員長調整資料)

- ・ ここで、ただいま説明した資料を含め、行政調査や現地調査などこれまでに行った調査を踏まえ、世界遺産登録に向けた課題や問題点、取り組みの方向性などについて、改めて各委員より御発言いただきたいと思う。
- ・ なお、先ほど各委員にお配りさせていただいたとおり、本日、早退した茂木委員から、意見の提出があったので、改めてお知らせする。
- ・ 各委員より御発言いただきたいと思う。

○吉田 崇仁委員

- ・ きょう、現地視察を行ったが、我々は学芸員の説明によって、「なるほど、これが盛り土だったのか」と想像しながら、よく理解できた。これから本登録の決定に向かうに当たって、ボランティアガイドなどは急に頼むということはなかなか大変なことだと思う。早めにボランティアガイドの養成が必要である。説明していただくことによって、理解をしやすいし、ただあそこに立っただけでは、一体何なんだろうということではわからない。交通アクセスも大事だが、ボランティアガイドの養成を早急に進めていただきたいと感じた。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 国内推薦候補の決定を受け、たしか来年がイコモスの現地調査というスケジュールを見たような気がするが違ったか。

○委員長(遠山 俊一)

- ・ 来年2月に奄美の自然遺産とどちらかが選ばれるという段階を経なければ、イコモスの調査は入ってこない。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 選ばれた場合は来年に現地調査が入る可能性もあるということで、この1年間が大事だと思っている。今、委員長から説明があったこの2つはもちろんだが、やはり市民の機運の醸成ということでは、先ほどの現地調査の説明で、垣ノ島遺跡の見学に結構、人が来ているということだが、まだまだ足りないと思っている。宣伝についても、インターネットに出ていると担当者は言っていたが、それだけでは全然だめで、書店でのブックカバーだけではなく、もっと大きなポスターにして市内に張るなど積極的な広報の仕方を考えていった方がいいと思っている。うちの家族も言っていたが、国内推薦候補の決定を受けたので、もう一度行ってみようという話になって、10月あたりに団体で行きたいと言っている。やはり機運が盛り上がってきたと感じているので、この1年間でそういう取り組みをしていけたらと思っている。
- ・ 鹿部の道の駅はにぎわっている。縄文文化交流センターも道の駅だが、盛り上がっていないような気機がする。お客さんを誘導するようなイベントをしながら、中も見ながら一緒に楽しめるような雰囲気をつくっていくのがいいと、きょう、垣ノ島遺跡を見て思った。

○吉田 崇仁委員

- ・ 地域の盛り上がりについて、きょう、お昼に中空土偶弁当を食べたが、地域の中で一生懸命な人もいるが、全く無関心な人も多い。南茅部だけの問題ではなく函館市全体として盛り上げていかなければならない。案外、無関心な人も多い。そこでいかに市民を盛り上げていくかということが大事な課題である。

○板倉 一幸委員

- ・ 遺跡とか考古学というのは、割とコアな人たちの関心は非常に高い。自分たちの周りを含めて、この遺跡、あるいは縄文のことについて、どれだけ市民がわかっているか、あるいはそこにそういう遺跡があるということを承知しているのかとなると、なかなか裾野の広がりがまだないのではないのだろうかと思う。もちろんこれは行ってもらわなければならないが、単に世界遺産になるならないということだけではなくて、地域にある遺跡、大切なものというようなことで、そこをしっかりと市民の皆さんに知っていただくという取り組みが、今まで少し欠けていると思う。そういうことに力を入れてほしいと思っている。
- ・ 長野県にある縄文のビーナスという国宝があるのだが、展示してある場所に行こうと思っても、ここ一緒に交通の便が非常に悪く、行ってもバスはもう終わりましたという感じで行けなかった。どうやって行けるかということの周知や、行きやすい方法、特に、縄文文化交流センターはバイパスにあり、路線バスは人の住んでいるところを通るので、そういう意味では、今はシャトルバスが臨時的に運行しているが、ああいうことは通年でやっていかなければならないと思う。

○島 昌之委員

- ・ 多くの人と同じなのだが、市民の盛り上がりという意味からすると、まだ盛り上がりが欠けていると思う。佐賀市の取り組みを見てきたが、議員全員が議会の開会日に同じポロシャツを着て、地域のテレビでそれをアピールし、議会も一生懸命取り組んでいるというようなことをやって、非常に効果があったという話があった。9月議会に向けて間に合うかどうかというのもあるが、例えば、議員が自ら動いて盛り上げていくということも一つなのかなと思う。まずは市民が世界遺産登録に向けた機運を盛り上げていく。
- ・ 大牟田市からいろいろ話を聞くと、世界遺産に向けた取り組みは、前はそんなに市民の熱心な取り組みなどはなかったが、結果として、世界遺産に登録された後で、そのことが市民のアイデンティティというか、自分たちの生まれた町に愛着と誇りを持てるきっかけとなり、全ての学校がユネスコスクールに認定されて教育されている。そういうことからすると、持続可能なこれからの地域の発展とか教育のあり方とか考えると、これは一つのすばらしいツールというか、手段になり得るのではないかと思う。この機会を逃してしまうと函館市は大事なものを失っていくと思うので、まずは市民を盛り上げていく。そのために議会として、一つはポロシャツやTシャツを全員で揃えて、ばあっと出て行くと、これはインパクトがあるし、何らかの行事など、事あるごとにアピールしていくことができる、そういうものも取り入れてみてはどうかという思いがある。

○井田 範行委員

- ・ 私も先ほどから話が出ているコアじゃない人間の一人だが、周りの方に二、三年ぶりに明るい話題だねと振るのだが、なかなか反応が弱いというのが恐らく皆さんも同じ感想をお持ちだと思う。その中で、今後の見せ方という部分は決まってから、いろんな見せ方などは、他都市の事例でもわかるので、そこよりもまず今、候補に挙がっている構成資産17のうち2つが函館市にあるという部分までをうまく発信できないか。新聞やマスコミなどで報道されたが、大体ああいう記事は読まない方が多い。細かい話までしていくとコアな人たちしか入ってこないで、きっかけの部分で、構成資産17のうち、北海道に5つあり、そのうち2つが函館市にあるという部分を中心に発信すると。
- ・ 大牟田市でやっていたのだが、発信の仕方として効果的なのが、いろんな方法があるだろうが、子

供たちというのがキーワードになっていく。ボランティアなどいろいろなアクションの方法があるの
だろうが、子供が動くとも保護者が動く。この動きというのは結構、マスコミでアナウンスする場面が
今回の行政調査を見ても多かったと思うので、教育という言い方がいいのかどうか分からないが、子
供たちへのうまい発信の仕方によって、2つだけ函館市にあるんだという発信をしていくのが、今の
段階のパターンではないかと思う。実際、国内候補に決定すると、次のステップ、次のステップとど
ンドン上がっていかないとならないのだろうが、まずは子供たちを中心に2つあるんだと発信してい
くというのが極めて重要だとつくづく感じた。

○浜野 幸子委員

- ・ 委員長がいつもこの問題で、本会議場や委員会でも話していたが、私たちと同じ気持ちで今回も調査
を行って来て、委員長として、思いはどうだったのかお聞きしたい。
- ・ 私は何度か行って見ているが、かなりの予算が使われている。先ほど教育委員会に聞いたら、毎年、
市と国からの補助でやっている。我々の思いがかなうまでにどれだけかかるか。我々の今いる段階が
どの程度になれば、子供たちや市民が実感できる時期がくるのか。大変遠い希望であって夢であって
思いであるということを私は思っている。
- ・ 委員長の質問を議事録で見えてきたが、きょう、現地を見てきて、委員長はどのように思ったのか教
えていただきたい。

○委員長（遠山 俊一）

- ・ 私の立場で発言してよいのか今までずっと悩んでいたが……

○浜野 幸子委員

- ・ 委員会できょうは、互いの意見を出す場であれば、発言して差し支えないと思うが。

○委員長（遠山 俊一）

- ・ 構成資産を推す地元の人間として、バイパスを建設するにあたり、いろいろな縄文遺跡が出てきて、
なかなかバイパス工事が進まない中、垣ノ島遺跡と大船遺跡が脚光を浴びているということに対して
非常にうれしく思っているところである。総務常任委員のみなさんにも御足労いただき、現地を見て
もらったりして、機運も以前よりは盛り上がってきたのかなということは感じている。ただ、先ほど
みなさんから指摘があったとおり、まだまだ浸透していないという感覚を持っている。
- ・ 道南縄文文化推進協議会が、漁火通りに設置していただいた横看板があり、「北海道・北東北の縄
文遺跡群を世界遺産に」という看板がある。また、つい先日、南茅部総合センターの前に教育委員会
が同じく「北海道・北東北の縄文遺跡群を世界遺産に」という形で看板を設置していただいた。しか
し、今回の推薦を受けてマスコミなどを見ても、まだまだ大船遺跡にしても、垣ノ島遺跡にしても、
知名度が足りない。一般質問の中でも述べたが、「北海道・北東北の」と大上段に構えるのではなく、
函館市においては、「大船遺跡・垣ノ島遺跡を世界遺産に」と言った方が市民にとっては身近に感じ
てもらえるのではないかという思いをしている。先日、函館市南かやべ縄文文化創世の会の有志が数
名集まり、今後の取り組みについて協議したときにも、民間レベルで看板を設置しようという話が出
て、案ではあるが、「北海道・北東北の遺跡群みんなの力で大船遺跡・垣ノ島遺跡を世界遺産に」と
いう立て看板を設置しようと協議をしているところある。例えば企業の方に協力していただくにして
も、やはり身近に遺跡があり、この遺跡なんだと明らかにした方が、企業の方も協力していただきや
すいと感じている。

- ・ 教育委員会からこういうチラシをつくりますという事前の連絡が入り、私は単純にこのチラシを全戸に新聞折込かなんかするのかと想像していたら、こんな立派すぎる紙で、もっと簡単に安く上がるチラシでいいから全戸に配布できるようなシステムのものであればもっと周知できたのかなということを感じていた。
- ・ この夏休み期間に縄文文化交流センターに何度か足を運んだが、子供たちが自由研究で今までにないくらいたくさん来ていた。これも推薦の効果だと思うが、それを指導してくれる方の人数が圧倒的に少ない。地元の南茅部高校の方たちに事前に、今いる指導者たちが一緒になって、こういう指導をしたいのだが、お手伝いしていただけないかと、高校生の皆さんと一緒にそこに入ってきた子供たちに指導できるような体制、これはボランティアガイドに通じる部分もあるだろうと思うが、そうすることによって、縄文が楽しいと思ってもらえればよいと思う。行ったけれども誰も面倒見てくれなくて、もういいやと思われるのではなく、きめ細やかなサービス、指導をして、楽しかった、また来たいという機運を醸成していくのが、これからやるべきことかと感じている。
- ・ きょう、皆さんが走った道道函館南茅部線は狭く、カーブもたくさんある。函館駅から遺跡に向かうのに恐らく1時間ほどかかると思うが、それが50分、40分になることによって、時間的なロスや交通費の問題もそうだが、今後の地域の生かし方、活用することによって函館の観光産業にとっても大きなプラスになると思う。
- ・ 教育委員会も一生懸命やっていると思うし、商工会議所も一生懸命やっていると思う。縄文文化交流センターや、地域は地域で私どもも函館市南かやべ縄文文化創世の会の方たちと一緒にやっている。これらのネットワークがうまく機能しないで、それぞれがそれぞれで動いている。先ほどの総合センターの看板のように、「いや、私たちはそうでなかったのにな。本当は大船遺跡・垣ノ島遺跡と書いてほしかったのにな。」という思いがこちらにありながら、実際にできたものと違う。お互いにもう少し、ネットワークを活用しながらお互いに思いを集約していくようなシステムも必要かなという思いを感じている。

○浜野 幸子委員

- ・ きょう、委員会でお互いの意見を話すということであったので、僭越ではあるが、委員長にお尋ねした。いろんな立場で千円の寄付をいただいて会員になったり、今、一生懸命、商工会議所も取り組んでいるのは事実である。ただ、井田委員も話したように、一般市民・学生の心にじんとするものがない。中空土偶の一部分だけがにぎわっているというのが今の現状ではないかと見ていたので、お気持ちを聞かせていただいた。

○島 昌之委員

- ・ 縄文遺跡群というか、遺跡そのものよりも、1万年単位で続いた縄文の文化・価値というものに重きがあるとよく言われている。遺跡を見て1万年前の人の生活がこうだったのかとかではなく、1万年間続いた争いごとがなかったという縄文の価値というものに重きがあって、今回さまざまなストーリーが生まれたと思うが、たまたま7月に日本ユネスコ運動全国大会が函館で行われ、阿部 千春さんが講演していた。そこで、改めて縄文文化の価値を聞かせていただいた。恐らくそういう話を聞かないと、遺跡を見て、カックウを見て、よいとか悪いとかではなく、そこに連なっていた文化の価値が大事ではないかというのが肝だと思っている。もっと市民への啓発運動、縄文の文化・魅力がどこにあるのかということ、なぜ世界遺産に登録するだけの価値があるのかということが我々自身も知

っていかないときちゃんと説明できない。その辺のことを子供たちにも説明できるようになっていけばまた、違う動きになっていくのかなと思うので、議会がよいのかわからないが、阿部 千春さんの話をもう一度、国内候補になったということを受けて講演をやっていただくとか、そういう機運を次に展開していくことも必要ではないかと思っている。

- ・ ドキュメンタリーで半年くらい前に、縄文の価値がどこにあるのかということを見たが、改めて、価値はそこにあったんだと私は思った。ただ、カックウを見て素晴らしいというだけではないなと感じたので、そのような取り組みというのも大事かと思っている。

○日角 邦夫委員

- ・ 今回、文化遺産は文科省で、奄美・沖縄は環境省ですよね。向こうは見て、すごいなと感じることができるが、うちの場合は見れるものではない。空想の世界にも通ずるし、土の中にあり、なかなかアピールしても考え込まなければ、島委員が言ったように、すんなり落ちてこない。しかし、今の人たちの受けというのは、見てすぐにわかるようなものでないと、受けない。その辺を含めれば、三内丸山遺跡は、観光の周遊バスが常に回っている。市内に近いということもあって、三内丸山遺跡も見れるし、美術館も見れるし、観光物産展なんかも見れる。一つのテーマをぐるぐる動かしている。そうゆうふうに函館もなればもっと知名度が上がるのだろうと思うが、なかなか遠い。私も今回で3回目くらいであるが、行ったときにはすごいなと感じる。コアではないが好きなので。だけどなかなか行かさない。思いはあるが、本当にこの遺産を残すということは、手つかずにするべきではないかといった意見なども結構ある。
- ・ 今回、今年までに2件を1件にする訳なので、最終的な目的が世界遺産の登録だということになれば、沖縄・奄美よりすごいところを見せる必要がある。そうなれば、皆さん言うとおりの市民の盛り上がりということになる。率直に言って、なかなか難しい問題だと思う。市民の皆さんは無料で1回は見に行けるくらいまでやらないと難しい問題であるのかなと受け止めた。
- ・ 茂木委員の意見は個別に言えばこのとおりだと思う。

○委員長（遠山 俊一）

- ・ 先ほど島委員が言われた、精神的なものが今まさに縄文に求められたものであり、価値がそこにある。そこを突き詰めていってもなかなか興味を持ってもらえないので、具体的に遺跡を見たり、ビジュアルに訴えるものと合わせながら、精神性を訴えていくというのが、この縄文に対する取り組みだと思う。やはり、自然と共生すること、平和に暮らしたということ、それから全てのものに神が宿り、使い終わったものは神に返す送りの儀式をして廃棄するなど、そういう精神的なものを本来ここに学ぶべきではあるが、それだけやっていくとなかなか見てもらえないので、幅広くビジュアルに訴える取り組みも必要だろうと考えていた。基本的に島委員が言われたように、精神的なものを心にとどめながら、いろんなものに活用していくようなことをしていくべきだろうと感じている。
- ・ ただいま、各委員から、るる発言をいただいたが、正副としては、これまでの調査や本日いただいた発言をもとに、課題等を整理し、次回以降、まとめに向けた協議を行っていきたいと考えているが、いかが。（異議なし）
- ・ その他、本件について、各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 閉会中に委員会が行った調査については、次の定例会で報告することとなるが、委員長の報告文については委員長に一任願いたいと思う。これに異議あるか。（異議なし）

- ・ 議題終結宣告
-

2 その他

○委員長（遠山 俊一）

- ・ その他、各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午後 2 時26分散会